

摂食・嚥下機能評価アセスメント表

障害部位	問題点	観察事項	評価
先行期	何をどのくらい食べるか判断できない	全身状態 意識レベル 高次脳機能	疾患・症状の不安定 JCS II ~ 以下 コミュニケーションが図れない 注意力・集中力がない 食物を見ても反応しない
準備期	食物を咀嚼し食塊を形成することができない。または不十分である。 摂食動作が不十分で食物を口に運べない	歯の状態 顎関節の可動域 体幹維持 上肢の可動域 頭部の支持	歯をくいしばることができない 歯の咬合不適合 軟らかいものしか食べない 口腔内の衛生状態が悪い 顎が上下するだけで回旋運動が見られない
口腔期	食物を口腔から咽頭へ送ることができない、また障害がある	口唇の運動 舌の運動 流涎 軟口蓋の運動 口腔内の知覚機能 構音機能 咽頭反射	口唇を閉じることができない 口唇をすぼめることができない 絶えず流涎がある 舌の上下・左右運動ができない 舌の突き出しができない 舌根沈下気味 口腔の知覚・味覚がわからない 口中に食物が残る 麻痺側の頬に食物が貯留する 食物が口からこぼれる 言葉が聞き取りにくい しゃべりにくい 口蓋音が出ない
咽頭期	食塊を咽頭から食道へ送ることができない。または障害がある	嚥下運動 咽頭運動 頸部の運動	唾液の飲み込みに時間がかかる 飲み込み時に甲状軟骨の挙上がある 喘鳴を伴う著しいむせがある 夜間の咳が激しく頻回である 食後に集中して咳が出る 呼吸が浅い
食道期	食塊を食道から胃へ送ることができない。または障害がある		嘔吐を繰り返す むせ現象